

## 〔報告〕

# 幼児期における健康リテラシー教育カリキュラムの開発

粉川 妙子

東北文化学園大学医療福祉学部看護学科

### 要旨

幼児期の健康教育に焦点をあて、2つの幼稚園において健康リテラシー教育カリキュラムの開発に取り組んだ。本研究は、健康教育を幼児期から科学的な根拠の基、成長発達レベルに応じた教育をすることにより、義務教育及びその後の健康教育の基礎を培い健康リテラシーに繋ぐことを目的とした。幼稚園での健康教育実践を重ね、検証を通してカリキュラムの開発を目指した。

健康教育実践後、保護者と幼稚園教諭からのアンケートの回答を分析した。分析結果として、子どもたちの健康行動に変化が見られたとの結果を得た。保護者と幼稚園教諭の感想からは、幼児期の子どもの健康への関心と病気への予防法が身につく期待感も寄せられた。この結果を踏まえ、健康教育カリキュラムの開発に繋げると共に、今後の方向性についても検討を加えた。

【キーワード】 健康教育 健康リテラシー 幼稚園教育 いのちの教育

## I. はじめに

出生率の低下で子どもの数が減少していく中で、子ども達の健やかな成長発達には必ずしも保障されているとは言えない。社会環境の著しい変化やライフスタイルの変化により様々な健康問題が顕在化してきている。2001年より開始された「健やか親子21」<sup>1)</sup>の第2回中間評価報告書(平成22年3月31日)において、今後5年間で重点的に推進する4つ項目が示されている。その中の2つに「思春期の自殺の防止を含む子どもの心の問題への取組の強化」と「子どもの虐待防止対策の更なる強化」が掲げられている。子どもの健康問題は身体的な疾患だけではなく、いじめや不登校、保健室登校等、心の病気など複雑多様化している現状である。このような状況の中で、子どもたちが複雑な社会環境における様々な問題に直面した時に、

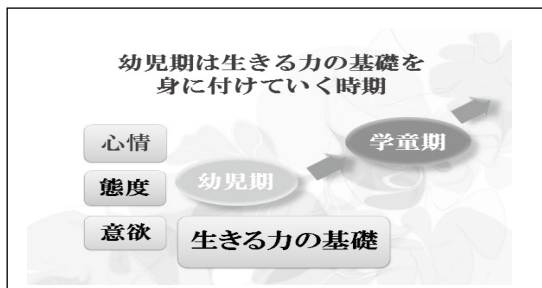
対処できる力を育む必要性が強く求められる。

本研究では、幼児期の健康教育を通して中長期的展望のもと予防機能としてその力を育てていくことを目的として取り組む。単に知識だけの教授ではなく、実際に自分で考え行動できる能力を育てる健康リテラシー教育を目指すものである。このことは、文部科学省が学習指導要領に掲げている「生きる力」を育むことに繋がる。(図1)

本研究者はこれまでに、小学校における健康教育(いのちの教育)<sup>2)</sup>に関するモデル開発の実践研究を行ってきた。これまでの実践の取組みを踏まえ、幼児教育から小学校教育まで包括した系統的な健康リテラシー教育カリキュラムの開発を行なうものである。研究文献での幼稚園教育における健康リテラシー教育の取組みについては、単発的な健康教育に留まっており、系統立てて実践

している施設はほとんどない。幼児教育実践を通して幼児教育における健康リテラシー教育カリキュラムの開発は、幼児教育における新たな試みと言える。

(図1)

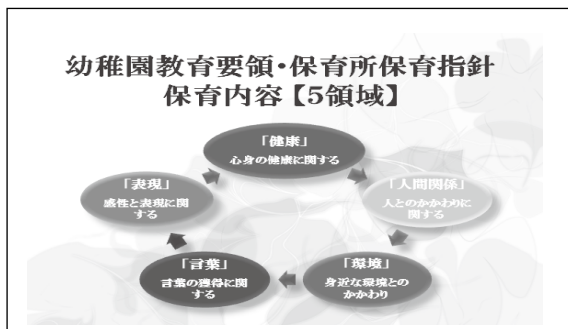


## II. 研究目的

就学前の幼児期における健康教育に視点を置き、実践を通して健康リテラシー教育の効果を明らかにし、カリキュラムの開発を行うものである。

健康教育の位置づけとしては、幼稚園教育要領・保育所保育指針<sup>3)</sup>に、5領域の保育内容が示されており、その1つに「健康（心身の健康に関する）」が掲げられている。(図2)

(図2)



## III. 用語の定義

健康教育とは包括的保健教育（いのちの教育）として捉える。子どもたちに保健学習をとおして“生きる力”を「いのちの教育」という枠組みの中で、中・長期的展望のもと予防的機能（不登校、いじめ、非行、自殺、低年齢の子どもによる殺傷事件等）として捉えながら“命の大切さ”を伝えていく教育。

健康リテラシーとは、1990年米国の健康教育用

語に関する合同委員会<sup>4)</sup>（The Joint Committee of Health Education Terminology）において「健康に関する情報を自ら探し出して、正しく読み取り、その情報を自らの健康状態を高めるように活用できる能力」として示された。さらに、1994年には米国カリフォルニア州の教育局が健康リテラシーの4つの下位概念を示した。①生涯にわたる自分の健康に対して責任をもつ。②他者の健康を尊重し、他者へのヘルスプロモーションを実践する。③発育発達の過程を理解する。④健康に関連した情報、製品サービスを適切に利用する。

渡邊<sup>5)</sup>は健康リテラシーとは、単なる知識の理解ではなく、健康を保持するための課題に取り組み、意思決定を行い、コミュニケーションやソーシャルスキルを用いながら行動を起こす実践力と示している。

本研究では、幼児期における子どもたちが健康（心と体）に関する教育を学び、その学びで得た知識を子どもたちが自らの健康状態を高めるために実践し活用できる能力を健康リテラシーと捉える。

## IV. 研究方法

### 1. 対象

健康教育は2つの幼稚園（Y幼稚園、K幼稚園）を対象とする。両幼稚園とも年少・年中・年長を対象とし、Y幼稚園の園児数109名（年少34名、年中31名、年長44名）である。K幼稚園の園児数123名（年少51名、年中35名、年長37名）である。アンケートは園児の保護者とクラス担当幼稚園教諭（16名）を対象とした。

### 2. 期間

2012年10月～12月

### 3. 実施方法

幼稚園児の年少・年中・年長ごとに健康教育を実施。実施時間は、年少約15分とし年中・年長は約20分～30分以内に設定。

4.健康教育実践内容

	健康教育テーマ
第1回	・手あらいをしよう
第2回	・は・は・はのおはなし ～歯みがきしよう～
第3回	・かぜ・インフルエンザの予防 (1)
第4回	・かぜ・インフルエンザの予防 (2)
第5回	・けがのてあて

5.分析方法

健康教育終了後の幼稚園児の言動について、家庭と幼稚園内での変化が見られたかどうかをアンケート用紙に記述式で記入してもらい回収した。保護者の調査結果は幼稚園ごとに集計し、幼稚園教諭の調査結果は両幼稚園をまとめて集計した。幼稚園児の言動に変化が見られたかどうかについては量的分析を用いた。園児の具体的な言動の変化についての自由記述部分については精読し、記述されている事柄の意味を読み取り、内容の類似性からサブカテゴリー、カテゴリーを抽出した。得られた結果の客観性を保持するために、統計分析の専門家の協力を得て、内容の妥当性を検討した。

6.倫理的配慮

各幼稚園とも、保護者には書面にて研究の趣旨を説明し、調査票の提出を持って同意を得たとした。幼稚園教諭に対しては研究の趣旨を口頭で説明した。どちらも無記名とし、不利益は生じないこと、データは本研究以外に使用しないことを説明し、同意を得られたアンケートに対して実施した。

V. 結果

分析結果については、幼稚園児の言動に変化が見られたかどうかについては量的分析で示す(表1)。自由記述部分については、『変化あり』で園児の具体的な言動の変化についての記述されている中から、表現された単文(要約)を分析した。

1. 園児の言動変化の有無

1) 保護者(表1)

・Y幼稚園(回収率72%)では、変化ありと回答した保護者の内訳は、年少96%・年中79%・年長81%であった。

・K幼稚園(回収率56%)では、変化ありと回答した保護者の内訳は、年少100%・年中100%・年長100%であった。

2) 幼稚園教諭(Y、K幼稚園合計16名)

・Y、K幼稚園教諭(クラス担当)では、変化ありが16名中16名で100%であった。

表1 保護者アンケート 一人数一

Y幼稚園	変化あり
年少	23/24 (96%)
年中	19/24 (79%)
年長	25/31 (81%)
K幼稚園	変化あり
年少	23/23 (100%)
年中	24/24 (100%)
年長	14/14 (100%)

2. 園児の具体的な言動の変化

1) 保護者(Y、K幼稚園)の記述より

4つのカテゴリーと16のサブカテゴリーが抽出された(表2)。

カテゴリーは【 】、サブカテゴリー《 》、表現された単文の内容は〔 〕で示した。

(1)【自分の健康への関心】

《手洗い》《うがい》《歯みがき》《予防接種》《けがの手当て》の5項目に分類された。〔手洗いをするようになった(普段洗わない手首、石鹸を使用して洗う)〔食べた後、歯をすぐ磨くようになった〕〔インフルエンザ予防接種を嫌がっていたが自分から行くと言ってくれた〕〔これまで絆創膏を貼ると剥がすのを嫌がっていたが自分から剥がし取り換えるようになった〕44件で表現されている。

(2)【健康に対する積極的行動】

《手洗いをする》《うがいをする》《歯みがきを

する」《マスクをする》の4項目に分類された。

〔手洗いやうがいを嫌がらずにするようになった〕〔説明すると納得してするようになった〕

〔自分から手を丁寧に洗うようになった（爪の中まで）・時間が長くなった〕〔指1本1本丁寧に洗うようになった〕〔おやつの前に自分から手を洗うようになった〕〔外から帰ってくると進んで手を洗うようになった〕〔うがいをするようになった〕〔うがいをする時“ま・ほ・お”と言ってしていた〕〔咳がでると“うがいしてくる”と洗面所に行く〕〔歯みがきを丁寧にするようになった〕〔歯みがきのやり方が変わり良くなった〕〔歯ブラシを噛まずに磨くようになった〕〔かぜをひいた時、自分から“マスクちょうだい”と言ってきた〕87件で表現されている。

### (3) 【健康についての知識の確認と相互理解】

《手洗いの話》《うがいの話》《かぜとマスクの話》《歯みがき話》の4項目に分類された。〔一緒に手洗いた時“ここもこうやって洗うんだよ”と教えてくれた〕〔手洗い、うがいの方法を身振り手振りで教えてくれた〕〔パパ、ママ手を洗ったの？と言われた〕〔うがいの方法ま・ほ・おを話してくれた〕〔妹や弟にま・ほ・おを教えていた〕〔どうしてマスクをするのかを教えてくれた〕〔お姉ちゃんが咳をしていた時に“お口に手をしてね”と注意をしていた〕〔咳をするとマスクしてねと言う〕〔のどが乾燥した時はマスクをすればよいと教えてくれた〕〔せきやくしゃみをするとバイ菌がこんなに飛ぶよ〕〔ハブラシの部位の名前が足の呼び方と同じだよと教えてくれた〕〔食べたらむし歯にならないように歯を磨くんだよ〕〔かぜの予防、予防接種のことを話してくれた〕121件で表現されている

### (4) 【健康への継続的な行動習慣】

《手洗いの継続》《うがいの継続》《歯みがきの継続》の4項目に分類された。〔おやつの前に自分から手を洗うようになった〕〔手の洗い方が丁寧に時間をかけて洗うようになった〕〔歯みがきの仕方が良くなった〕〔食後すぐ歯を磨いている〕〔しっ

かりと石鹸で洗うようになった〕〔ごはんの前に自分から進んで手を洗うようになった〕〔外出後のうがい、手洗いが徹底されてきている〕57件で表現されている。

## 3. 保護者、幼稚園教諭の感想

### 1) 保護者

〔手洗いをしっかりしてくれるようになり感動した〕〔手洗いが習慣化しこのまま継続してほしい〕〔インフルエンザの話を知ったことで予防接種を嫌がらなくなり良かった』『子どもは幼いなりになぜ、どうしてなのかが分かる」と納得して行動する〕〔なぜ手を洗わなければならないのかが分かる」と手洗いにも身が入る〕〔子どもたちの健康への関心と病気への予防法もしっかり身につくと思う〕〔この手洗い、うがいが続くように家でも頑張りたい〕〔小さい時期に健康について学ぶことができとても良かった〕〔インフルエンザ予防接種を嫌がっていたが、お話を聞いた後自分から行くと言ってくれたのに感動した〕〔子どもたちの目線で分かりやすく視覚と記憶に残す説明とはこういう事と感じた〕〔親が教えてあげられないことを教えてもらえるので助かる〕〔これからも色々なことを繰り返し教えてほしい〕〔小さくとも心に残っている〕〔親が教えるより効果がある〕〔健康のおはなしはすごくいいと思う〕〔親子で聞けたらもっといいと思う〕〔習慣化するために定期的に教えてほしい〕〔健康教育を続けてほしい〕などが挙げられた。

### 2) 幼稚園教諭

〔お話を聞いた後から、子ども同士でも“爪も洗わなきゃ”“手首も！”などと声をかけ合う姿が見られた〕〔手洗いがとても丁寧に出来るようになった〕〔トイレの後に手洗いをする子やうがいをする子が増えた〕〔マスクの話を知った後、鼻を隠すことを意識している様子が見られた〕などが挙げられた。健康教育方法に関する感想からは、〔時間配分について、年少～年長まで集中して話が聞けるちょうど良い長さだった〕〔“まほお”の合言葉が分かりやすかった〕〔いつもと違った雰囲気子どもたちは何が始まるかわくわくしていた〕〔教材

等が工夫されていて子どもたちが楽しく学ぶことができた〕[子どもたちの指導方法や話し方が勉強になった〕[健康に関するお話の継続性の必要を感じた〕などが挙げられた。

｜ 【健康教育の授業風景：パネル1～6】

1 1 [かぜ・インフルエンザ予防のおはなし]



4 4 [ウイルスはどこまで飛ぶかな]



2 2 [手あらいの練習]



5 5 [うがいの練習:ま・ほ・お...]



3 3 [からだのしくみ]



6 6 [けがのてあて]





表2 幼稚園児の健康教育後の具体的な言動変化

～保護者アンケート記述回答から導き出されたカテゴリー～

カテゴリー	サブカテゴリー	表現された単文の要約	数
自分の健康への関心	手洗い	・手洗いをするようになった	15
	うがい	・うがいをするようになった。	11
	歯みがき	・食べた後、歯をすぐ磨くようになった	8
	予防接種	・インフルエンザ予防接種を嫌がっていたが自分から行くと言った	7
	けがの手当	・これまで絆創膏を貼ると剥がすのを嫌がっていたが剥がし取り換える	3
健康に対する積極的行動	手洗いをする	・手洗いやうがいを嫌がらずに、説明すると納得してするようになった	2
		・自分から手を丁寧に洗うようになった（爪の中まで）	23
		・おやつの前に手を洗う・外から帰ってくると進んで手を洗う	10
	うがいをする	・うがいをする・うがいをする時“ま・ほ・お”と言ってする	28
		・咳がでると“うがいしてくる”と洗面所に行く	5
	歯みがきをする	・歯みがきを丁寧にする・歯みがきのやり方が変わり良くなる	11
・歯ブラシを嚙まずに磨く		3	
マスクをする	・かぜをひいた時、自分から“マスクちょうだい”と言う	5	
健康についての知識の確認と相互理解	手洗いの話	・一緒に手洗した時“ここもこうやって洗うんだよ”と教えてくれた	26
		・手洗い、うがいの方法を身振り手振りで教えてくれた	25
		・パパ、ママ手を洗ったの？と言われた	15
	うがいの話	・うがいの方法ま・ほ・おを話してくれた	7
		・妹や弟にま・ほ・おを教えていた	5
	マスク・かぜの話	・どうしてマスクをするのかを教えてくれた	6
		・お姉ちゃんが咳をしていた時に“お口に手をしてね”と注意をしていた	5
		・咳をするとマスクしてねと言う	6
		・のどが乾燥した時はマスクをすればよいと教えてくれた	2
		・せきやくしゃみをするバイ菌がこんなに飛ぶと教えてくれた	21
	かぜの予防、予防接種のことを話してくれた		3
歯みがきの話	・ハブラシの部位の名前が足の呼び方と同じだよと教えてくれた	3	
	・食べたらむし歯にならないように歯を磨くんだよと教えてくれた	21	
健康への継続的な行動習慣	手洗いの継続	・おやつの前に自分から手を洗うようになった	6
		・手の洗い方が丁寧に時間をかけて洗うようになった	5
		・しっかりと石鹸で洗うようになった	5
		・ごはんの前に自分から進んで手を洗うようになった	11
	うがいの継続	・外出後のうがい、手洗いが徹底されてきている	18
	歯みがきの継続	・歯みがきをしっかりやっている	8
・食後すぐに歯を磨いている		4	

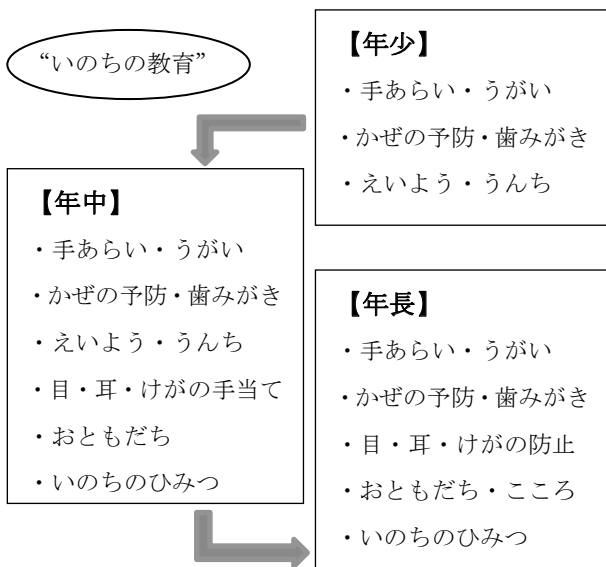
## VI. 考察

幼稚園児を対象とした健康教育実践後に園児の行動に変化が見られたかのアンケート結果は表1に示す通りである。Y 幼稚園での保護者アンケート結果では回収率 72%中、85% (67 名) に変化が見られた。K 幼稚園での保護者アンケート結果では回収率 56%中、100% (61 名) に変化がみられた。また、どんな行動に変化が見られたかについては表2で示した通りである。幼稚園教諭からのアンケート結果からも、園児の行動に変化が見られたとの全員の担任教諭から回答結果を得た。

この結果より、就学前の幼稚園児対象の健康教育実施については効果があったことが示唆された。結果で示した4つのカテゴリー【自分の健康への関心】【健康に対する積極的行動】【健康についての知識の確認と相互理解】【健康への継続的な行動習慣】は、文部科学省が示す幼稚園教育要領のねらいにも通じるものである。幼稚園教育は、義務教育及びその後の教育の基礎として生涯にわたる心身の形成の基礎を培う重要なものと位置付けられている。

幼児期における健康教育の実践は子どものセルフケア行動を生かすことで、様々な健康問題に対処できるための「生きる力」を育むことに繋がる重要な位置づけと考えられる。

### 【幼稚園の健康リテラシー教育カリキュラム】 ～教育モデル～



## VI. おわりに

幼児の健康教育に焦点をあて、2つの幼稚園で健康リテラシー教育カリキュラム開発のモデルを試行するため取組んだ。幼児期から科学的な根拠を成長発達レベルに応じた教育をすることで、健康意識を育て小学校での健康教育に繋ぐ重要な時期と捉え実施した。結果、保護者と幼稚園教諭のアンケートの回答から、子どもたちの健康行動に変化が見られたことが伺われた。

今後の課題として、単発の健康教育に終わることなく、確かな教育のねらいの基で継続した健康教育が計画的かつ組織的に実施されることが求められる。保護者からも『子どもたちの健康への関心と病気への予防法もしっかり身につくと思う』『子どもだけではなく親子で学べる機会も希望する』との声も出ている。教育現場の幼稚園教諭との連携、さらには地域の学校や関係機関との連携も視野に入れた健康教育の実施が重要となってくると思われる。一年次における実践と評価を検証し、次年度へと実践を通して健康教育リテラシーのカリキュラム開発に繋げていきたい。

統計分析でご協力いただいた東北大学倉元直樹准教授に深謝する。

本研究は平成 24 年度東北文化学園大学教育支援研究費(B)補助金の助成により行った。

## VII. 参考文献・資料

- 1)厚生労働省「健やか親子 21」第2回中間評価報告書 2010 年
- 2) 粉川 妙子：宮城教育大学大学院修士論文「小学校におけるいのち(生と死)の教育への試論」2005 年
- 3)文部科学省「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」2008 年
- 4)Joint Committee of Health Education Terminology: Report of the 1990 joint Committee on Health Education Terminology Journal of Health Education 22:97-110 ;1991

- 5) 渡邊 正樹：健康リテラシーの概念と評価  
日本保健医療行動科学会年報（16回）2001年  
P185～190
- 6) 粉川 妙子：仙台市立木町通小学校「教育計画」  
いのちの教育カリキュラム 2010年 P89-96
- 7) 近藤 卓：いのちを学ぶ・いのちを教える  
大修館書店 2002年
- 8) 近藤 卓：いのちの教育 実業之日本社  
2003年
- 9) 山花 郁子：いのちをみつめるブックトーク  
かど創房 1997年
- 10) 粉川 妙子：「はぎ」第52集 2010年 仙台市  
小学校教育研究会保健研究部会 P49-53



# Development of the Health Literacy Education Curriculum for Infants

**Taeko Kokawa, M.A.**

Department of Nursing, Faculty of Medical Science and Welfare,  
Tohoku Bunka Gakuen University